

衛生関係各課における健康危機管理取組み状況資料集

平成30年度報告

- (1) 医療政策課 P－ 1
- (2) 生活衛生課 P－ 3
- (3) 食品保健課 P－ 4
- (4) 感染症対策課 P－ 5

平成30年度医薬品、毒物・劇物等危機管理対応状況

(1) 薬局、医薬品販売業、毒物・劇物販売業等への立ち入り調査

年間を通じて、下記の営業者に店舗の管理状況や店舗内の広告物の掲示等について、立入検査を実施し、医薬品、毒物・劇物の適正管理の指導を行った。

【薬局・医薬品販売業】

＜立入検査実績＞

	薬局	店舗販売業	合計
立入店舗数	63(68)	57(37)	120(105)
不適店舗数	25(21)	16(6)	41(27)

() 内は前年度数

＜主な不適内容＞

薬局：偽造医薬品対応の手順書未作成、従事者の区別が不明瞭、許可証などの掲示物の不備、必要な届の未提出、毒薬と他の薬の混在、管理簿の記載不備、医薬品の譲渡・譲受記録の追加記載事項漏れ等。

店舗販売業：偽造医薬品対応の手順書未作成、管理簿の記載不備、店舗管理運営掲示の不備、医薬品と食品との区別が不明瞭、リスクごとの陳列がされていない、必要な届の未提出等。

【毒物・劇物販売業、毒物劇物業務上取扱施設、特定毒物研究施設】

＜立入検査実績＞

	毒物劇物 販売業	毒物劇物業務上取扱 施設(金属めっき業・運送業)	特定毒物 研究施設	合計
立入店舗数	18(19)	0(1)	1(1)	19(21)
不適店舗数	7(3)	0(0)	0(0)	7(3)

() 内は前年度数

＜主な不適内容＞

貯蔵・陳列場所の表示なし、販売時情報提供なし、盗難・紛失・事故（流出等）時の連絡先の表示なし、必要な届の未提出等。

(2) 毒物・劇物迅速検査キット保管状況

原因物資不明及び毒物・劇物を原因とする健康危機事例発生時の初期対応において、迅速な原因究明を図ることを目的に、環境総合センターに常備している。

イオン	ヒ素イオン	シアン化物	硝酸イオン	亜硝酸イオン	農薬	有機リン系農薬	アジ化ナトリウム
商品名	マルコアントヒ素イオンテスト	マルコアントシアン化物テスト	マルコアント硝酸イオンテスト	マルコアント亜硝酸イオンテスト	キットセーフAT-10 コリンエステラーゼ阻害剤検出用キット	有機リン農薬検査キット	アジ化ナトリウム簡易検査キット
検出対象	ヒ素イオン	シアン化物イオン	硝酸イオン	亜硝酸イオン	コリンエステラーゼ阻害反応による殺虫剤 (有機リン系、カルバメート系殺虫剤)		アジ化ナトリウム
規格(箱)	100枚分	100枚分	100枚分	100枚分	10回分	10回分	10回分
在庫数	2箱	2箱	2箱	2箱	2箱	1箱	1箱

(3) セアカゴケグモ抗毒素血清について

平成7年11月に大阪府において、オーストラリア原産のセアカゴケグモが発見され、その後、日本各地に棲息地域を広げ、平成25年には熊本市でも確認されている。このような状況を鑑み平成25年度からその咬傷の発生頻度や抗毒素治療に関する調査及び臨床研究を目的として、厚生労働科学研究費補助金研究事業で「抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究」（研究代表者 一二三 亨）が実施されている。

セアカゴケグモに咬まれると、咬まれた部位に軽い痛みを感じたり、熱感や搔痒感を伴うことが報告されている。また、全身症状を呈する症例では、吐き気、腹痛、発熱、不眠症、めまい、頭痛、全身の発疹などが認められる場合がある。これらの症状の治療の一つとして、オーストラリアを拠点とする CSL 社により製剤化された抗毒素を医師が個人輸入し、患者に投与する場合があります、一部の自治体では抗毒素を常備していた。ところが、国内で保有されていた抗毒素の有効期限は平成26年8月末までで、その後、オーストラリアから新たな抗毒素を輸入することが困難な状況となっている。

このような状況への対応として、それ以降は下記の取り扱い

事 務 連 絡

平成31年3月29日

都道府県衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

セアカゴケグモ抗毒素について

標記については、「セアカゴケグモ抗毒素について」（平成30年3月29日付け厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡）において情報提供した通り、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業）「抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究」（研究代表者 一二三 亨）においてセアカゴケグモ抗毒素を用いて臨床研究を実施しておりました。

今般、平成31年4月以降においても、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業）「抗毒素製剤の高品質化、及び抗毒素製剤を用いた治療体制に資する研究」（研究代表者 阿戸 学）において同セアカゴケグモ抗毒素を用いて臨床研究を実施することが決定しましたので情報提供いたします。

なお、「抗毒素の投与が必要な場合の連絡先」については、下記のとおりですので、併せてご連絡いたします。

貴部（局）においては、本事務連絡の趣旨を御了知いただくとともに、貴管下の医療機関宛てに周知いただきますようお願いいたします。

記

【抗毒素の投与が必要な場合の連絡先】

聖路加国際病院 分担研究者 一二三 亨

（電話・代表） 090-8349-9242

【本事務連絡に関する問い合わせ先】

厚生労働省健康局結核感染症課

（担当・内線） 井口（2373） 上戸（2935）

（電話・代表） 03-5253-1111

セアカゴケグモ対応

① 北区鶴羽田1丁目（本市1例目）

平成25年8月に北区鶴羽田1丁目において、県内で初めてセアカゴケグモが発見されました。それ以降、市民からの通報や関係各課等による追跡調査を実施し、生息が確認された際には、その都度、周辺一帯の駆除作業を実施しています。

表Ⅱ-2 セアカゴケグモの成体及び卵のう※の駆除数

年 度	成体駆除数	卵のう駆除数
平成25年度	3	数個
平成26年度	105	129
平成27年度	131	69
平成28年度	19	19
平成29年度	5	22
平成30年度	2	1

※ 卵のうは他のヒメグモ類を含んでいる可能性有り。

② 東区東町（本市2例目）

平成30年9月18日に東区東町の事業者から「駐車場の照明設備でセアカゴケグモらしいクモを見かけた、市販のクモ用殺虫剤で駆除して問題ないか」との相談を受け、送付された画像によりセアカゴケグモ（メス）であることを確認しました。

直ちに、事業所の周囲（半径約150m圏内）にて生息状況等の調査を行い、民有地敷地内で成体及び卵のうを確認したため、殺虫剤散布及び踏みつぶして駆除しました。翌19日には、相談のあった駐車場及び事業所の敷地を中心に周囲の生息状況等の調査を行い、同敷地の内外で成体及び卵のうを確認したため直ちに駆除しました。生息状況調査と並行して、敷地や集合住宅等の管理者を通じて掲示板等へのチラシの掲示依頼や各戸へのポスティングを行い、住民への注意喚起、駆除方法などの情報提供を行いました。

また、両日の調査結果等を基に報道機関への投げ込み及び市ホームページへの掲載を行い、市民に対して広く情報提供を行いました。

さらに、9月26日には、当該地と隣接する地区について生息状況等の調査を行いました。成体及び卵のうは確認されませんでした。

◆ セアカゴケグモ関係部署

熊本県：自然保護課、上益城地域振興局農林部林務課

熊本市：生活衛生課、各区総務企画課、環境共生課

その他：地域校区自治会 等

(3) 食品保健課資料

熊本市における食中毒発生状況

1 平成30年 熊本市食中毒発生状況

No.	発生年月日	原因施設	摂食者数	患者数	死亡者数	原因食品	病因物質	処分内容
1	平成30年1月8日	飲食店	2	2	0	1月6日に原因施設で提供された食事	カンピロバクター・ジェジュニ	営業停止2日間 (1/23～1/24) (営業自粛1/22)
2	平成30年1月25日	飲食店	3	3	0	1月23日(火)に原因施設で提供された食事(夕食)	ノロウイルスGⅡ	営業停止3日間 (1/29～1/31)
3	平成30年11月18日	自宅	3	1	0	11月17日に自宅で調理したアジの刺身	アニサキス	なし
合計 3件				6	0			

2 過去10年間の熊本市食中毒発生状況(平成21年～平成30年)

順位 (件数)	病因物質	件数	患者数
1	カンピロバクター	13	103
2	ノロウイルス	10	668
3	黄色ブドウ球菌	4	71
4	ふぐ毒	3	3
5	ヒスタミン	1	157
	腸管出血性大腸菌	1	30
	寄生虫(クドア)	1	14
	寄生虫(サルコ)	1	7
	寄生虫(アニサキス)	1	1
	不明	4	141
合計		39	1,195

順位 (件数)	原因施設	件数	患者数	特記事項
1	飲食店	27	640	
2	家庭	4	4	H26:ふぐ2件 H29:ふぐ1件 H30:アニサキス1件
3	給食施設	3	152	保育園2件 福祉施設1件
4	旅館	2	373	
5	弁当屋	1	15	
	食肉販売店	1	7	H23:馬刺し
	下宿	1	4	
合計		39	1,195	

平成 30 年度危機管理対応状況

1 訓練

(1)鳥インフルエンザ関連

- ・平成 30 年 10 月 30 日 (火)

発生時対応講習、防疫作業員の防護服脱着補助及び健康観察研修

参加者 保健所各課・各区保健子ども課・農業支援課・他 計 29 名

(2)新型インフルエンザ及びエボラ出血熱対応関連

- ・平成 30 年 11 月 9 日(金)及び 13 日(火)

新型インフルエンザ政府訓練 (課内にて机上訓練対応)

- ・平成 31 年 2 月 18 日 (月)

研修及び防護服着脱訓練 (熊本市健康危機管理訓練)

参加者 保健所各課・各区保健子ども課・労務厚生課 計 23 名

2 平成 30 年における主な感染症 (患者が受診した医療機関からの届出)

【海外渡航者の帰国後の感染症発生状況】

＜蚊媒介性感染症＞ 4 類感染症

- ① デング熱 全国 201 件・熊本市 1 件 (検査実施 1 件)
- ② ジカ熱 全国 0 件・熊本市 0 件 (検査実施 1 件)
- ③ チクングニア熱 全国 4 件・熊本市 0 件 (検査実施 1 件)

(海外渡航者への感染症予防及び感染拡大防止対策)

① 海外へ渡航予定の方への情報提供

- ・パスポートセンターへ海外で発生している感染症のチラシやポスターを配布
- ・市政だより、ホームページ及びラジオで感染症の情報提供

② 受診者への注意喚起

- ・医療機関を受診する際は、必ず医療機関に海外渡航したことを電話で伝え、特に麻しんが疑われる際は、医療機関の指示のもと受診することを注意喚起した。

【麻しん・風しん発生状況】

- ・麻しんや風しんについては、迅速な行政対応を行うため、医療機関からの報告を受けて確定診断のためのPCR検査を環境総合センターに依頼して実施している。

＜麻しん＞ 5 類感染症 全国 282 件・熊本市 1 件 (検査実施 29 件)

＜風しん＞ 5 類感染症 全国 2917 件・熊本市 9 件 (検査実施 29 件)

3 第 1 種感染症指定医療機関及び第 2 種感染症指定医療機関について

現在、市民病院の被災により、1 類及び 2 類感染症については、次の医療機関に依頼している。

第 1 種感染症指定医療機関 (1 類感染症)

- ・福岡県 独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター
- ・鹿児島県 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院

第 2 種感染症指定医療機関 (2 類感染症及び新型インフルエンザ等感染症)

- ・山鹿市民医療センター